



全文を読む: [10.1787/tax\\_wages-2019-en](https://doi.org/10.1787/tax_wages-2019-en)

## 賃金課税統計 2019 年版

### 日本語要約

OECD 諸国で平均賃金を得ている独身労働者に対する「税のくさび」の平均は 2018 年は 36.1%で、2017 年より 0.16 ポイント低下、4 年連続の下落となった。税のくさびは、雇用主が負担する人件費と雇用者の手取り賃金の差である。これは、雇用者と雇用主が支払う個人所得税と社会保険料の総額から、現金給付の受取額を差し引いた金額を算出し、雇用者の労働コスト総額に占める割合として示したものである。

2018 年に独身労働者に対する税のくさびの OECD 平均は下落したが、これは 4 力国で大幅な下落がみられたため、OECD 諸国の 3 分の 2 近くでは小幅ながら上昇している。税のくさびが大幅に下落した 4 力国は、エストニア (2.54 ポイント)、米国 (2.19 ポイント)、ハンガリー (1.11 ポイント)、ベルギー (1.09 ポイント) である。これらの変化の原因は、エストニアと米国については所得税の改革、ハンガリーとベルギーについては雇用者の社会保険料負担の減少である。

2018 年には、平均賃金を得ている独身労働者に対する税のくさびの OECD 平均は下落したが、OECD 加盟 22 力国で若干の上昇が見られた。ただし、上昇幅が 0.5 ポイントを超えた国はない。最も下落幅が大きかったエストニア、米国、ハンガリー、ベルギーの 4 力国に加えて、その他 OECD 加盟 10 力国でも、2018 年には平均的な労働者に対する税のくさびがやや (1 ポイント未満) 下落した。

これに対して、稼ぎ手が 1 人の夫婦に対する税のくさびの OECD 平均は 26.6%で、2017 年から横ばいとなっている。2018 年には OECD 加盟 16 力国で、稼ぎ手が 1 人の夫婦に対する税のくさびが下落した。下落幅が最も大きかったのは、ニュージーランド (4.52 ポイント)、リトアニア (2.50 ポイント)、米国とエストニア (いずれも 2.41 ポイント)、ハンガリー (1.13 ポイント)、ベルギー (1.09 ポイント)、ギリシャ (1.08 ポイント) である。この世帯構成に対する税のくさびは、チリでは横ばい、その他 OECD 加盟 19 力国では上昇した。ただし、ポーランド (児童給付支払額の減少に伴い、10.33 ポイント上昇) を除き、上昇幅が 1 ポイントを超えた国はない。

本報告書では、OECD 諸国において中央値の賃金を得ている独身労働者への課税について特集している。中央値の賃金を用いることで、OECD 諸国の賃金分布全体の平均賃金を用いるより一貫性の高い比較が可能となるが、データ入手可能性の問題から算出は容易ではない。2017 年には、OECD 諸国で中央値の賃金を得ている労働者の所得は、平均賃金の 80.8%相当であり、このためその税負担は労働コストの 34.3%と、平均賃金の労働者の 36.2%より低かった。チリとハンガリーを除く全ての OECD 諸国で、中央値の賃金を得ている労働者に対する税のくさびは、平均賃金の労働者のそれより低い、大半の国で税のくさびの差は大きくない。

## 主な結論

### OECD 諸国の 2018 年の税のくさびの平均は、2017 年より下落

- OECD 全体で、平均個人所得税と雇用者と雇用主の社会保険料が給与所得に占める割合は、2018 年は 36.1%で、0.16 ポイント下落した。
- 2018 年にその国の平均賃金を得ていて子供がいない独身世帯に対する税のくさびの平均が最も高かったのは、ベルギー(52.7%)、ドイツ(49.5%)、イタリア(47.9%)、フランス(47.6%)、オーストリア(47.6%)である。

- ・ 2017 年から 2018 年にかけて、税のくさびは 36 개국中 22 개국で上昇し、14 개국で下落した。下落幅が 1 ポイントを超えた国は上述の通り 4 개국あったが、その他 10 개국の下落幅はそれより小さなものであった。また、上昇幅が 0.5 ポイントを超えた国はなく、上昇幅が最大だった国は韓国 (0.49 ポイント) である。

#### 2018 年は、子供がいる世帯に対する税のくさびの平均は 26.6%

- ・ 2018 年に、稼ぎ手が 1 人で子供が 2 人いる平均賃金の夫婦の税のくさびが最も高かったのは、フランス (39.4%) とイタリア (39.1%) である。オーストリア、ベルギー、フィンランド、ギリシャ、スウェーデン、トルコは、37% から 38% の間だった。税のくさびが最も低かったのはニュージーランド (1.9%) で、チリ (7.0%)、スイス (9.8%) がそれに続いている。
- ・ 2017 年から 2018 年にかけて、この世帯構成の税のくさびの上昇幅が最も大きかったのは、ポーランド (10.33 ポイント) である。一方で下落幅が最も大きかったのは、ニュージーランド (4.52 ポイント)、リトアニア (2.50 ポイント)、エストニアと米国 (いずれも 2.41 ポイント) である。
- ・ チリとメキシコを除く全ての OECD 諸国で、稼ぎ手が 1 人で子供がいる世帯の税のくさびは、子供がいない独身者のそれよりも低かった。チリとメキシコでは、税負担水準はどちらの世帯構成でも同じである。ベルギー、カナダ、チェコ、ドイツ、アイルランド、ルクセンブルク、ニュージーランド、スロベニアでは、その差は労働コストの 15% を超えている。

#### 特集：2017 年の賃金が中央値の独身労働者への課税

- ・ 2017 年には、中位賃金を得ている独身労働者に対する税のくさびの OECD 平均 (34.3%) は、平均賃金の独身労働者より 2.0 ポイント低かった (36.2%)。 (端数処理による差がある)。
- ・ 2017 年の中央値の賃金を得ている労働者に対する税のくさびの平均は、国別に見ると、ベルギーの 52.0% からチリの 7% まで幅がある。21 개국で、中央値の賃金の労働者の税のくさびは、30% から 45% の間にある。
- ・ 2017 年には、賃金中央値の場合と平均値の場合の税のくさびの OECD 平均の差は、ほぼすべて (94.0%) が個人所得税の引き下げによるものであり、6 개국では雇用者の社会保険料負担が減少したことによる。

© OECD

本要約は OECD の公式翻訳ではありません。

本要約の転載は、OECD の著作権と原書名を明記することを条件に許可されます。

多言語版要約は、英語とフランス語で発表された OECD 出版物の抄録を翻訳したものです。



#### OECD iLibrary で英語版全文を読む!

© OECD (2019), *Taxing Wages 2019*, OECD Publishing.

doi: 10.1787/tax\_wages-2019-en